

英国助産婦学生日記

その3



2000年9月新学期開始

日方圭子

英国・サリー大学助産課程学生(ダイレクトエントリーコース)

9月11日オリエンテーション週間始まる

初日の会場は、看護／助産ディプロマコースの新入生200人でごった返していた。思っていた以上に男女、人種も混じって、年齢層も広く、10代後半から50代までいるように見える。でもやはり高校を出たばかりの年齢層が主流のよう。

大多数187人の看護学生に対し助産学生は少数派。これから3年間クラスをともにするのは、高校を出たばかりの18歳から38歳まで女性ばかりの15人。半数は18～19歳。20代前半の2人は社会学の学位を取ったばかりで、年長の3人は出産経験のある家族持ちらしい。留学生の私と、同居人でサリー州生まれ・ニュージーランド育ちのシャメリー以外は地元の人ばかり。私たち30代前半がちょうど中間の年齢にあたる。

オリエンテーション週間

オリエンテーションはこれから2週間続く。学生証作成、構内見学、結核検査、予防接種、student union・助産婦組合・看護婦組合の説明、制服合わせ等々。必要な過程だけれど、入学願書を送って1年近く経とうとしていて、やっと助産の勉強が始まると気持ちの準備ができていた私たちにはゆっくり過ぎるスタートだった。

実習時に着る制服も奨学金と同様、NHSから予算が出ていて、オリエンテーション期間に白いチュニック4着、青のパンツ3着が支給された。襟のバイアスが青の代わりにライラックという点だけが助産学生を看護学生と分けて

いる。「奨学金をもらえて制服までもらって、いくら看護婦や助産婦が不足しているたって甘やかされすぎじゃない?」と、苦学生の友人が苦笑いしていた。

これから卒業まで3年間の大まかな時間割が配られた(表)。この3年間で学ぶレベル0から2の教科科目すべての開始終了時期が1週間単位でわかるようになっていて、年3回7週間の休暇も記されている大まかなもの。休暇日数は他学部学生に比べて随分少ない(例えば冬休みは助産／看護学部が2週間に対して、他学部は4週間。夏休みは3週間：15週間)。

授業開始 レベル0

オリエンテーションが終わり、やっと授業が始まった。ダイレクトエントリーといっても、基礎の「レベル0」は看護学生と共通のカリキュラムが冬休みの始まる年末まで組まれている。

レベル0の教科は「情報収集と研究技術」「社会心理学入門」「解剖生理学入門」。高校を卒業していなくてもディプロマコースへの入学資格があるので、例えば「解剖・生理学」「心理・社会学」では高校卒業程度のレベルまでの内容を学ぶことになる。この2科目は週1度、大講堂で行なわれた。十数年前高校の「生物」で学んだはずの解剖生理学基礎の講義を再度英語で受けるという経験は、私を久々の学生気分浸たらせるのにぴったりのスタートだった。

看護学生と合同の授業だと、どうしても講師

表 助産ダイレクトエントリーディプロマコースのカリキュラム(英国サリー大学)

		看護コースと共通科目	2000年			2001年			2002年												2003年																	
レベル	科目(理論)		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
レベル0	専門技術・基礎	○	×	×	×	×																																
	情報収集と研究技術	○	×	×	×	×																																
	社会心理学入門	○	×	×	×	×																																
	解剖生理学入門	○	×	×	×	×																																
レベル1	助産実践開発				×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×																					
	ヘルスクアの環境	○	×	×	×	×																																
	専門技術とRelationship 技術	○				×	×	×	×	×	×	×	×	×	×																							
	ヘルス(心身の健康)の生物学的基礎	○			×	×	×	×	×	×	×	×	×	×																								
	文化・健康と病気	○														×																						
レベル2	薬理学																					×	×	×														
	研究に基づく実践																					×	×	×														
	合併症と助産実践																					×	×	×														
	社会心理と性の健康																						×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	胎児・新生児ケア																						×	×	×	×	×	×	×									
	健康教育と学習																						×	×	×	×	×	×	×									
	ヘルスクア業務管理																																×	×	×	×	×	
	実践家としての助産婦																												×	×	×	×	×	×	×	×	×	
実習 休暇	(実習期間) (休暇日数)																																					

* グレー部分は「実習」。この表では「授業」と重なって見えますが、カリキュラムは週ごとに組まれているので、実際に「実習」と「授業」が重なることはありません。

側は看護学生を相手に授業を進め、助産学生が混じっていることを無視(忘れている?)することが多かった。授業の中で看護師だけではなく、助産婦の役割についても言及する気遣いのある講師は、当然助産学生のポイントを得やすい。その点「情報収集と研究技術」の授業は少人数で行なわれた初めてのクラスで、講師が毎回助産婦教員だったことが先の2教科よりもうれしかった。

ノートの有効な取り方、小論文の書き方から、図書館・コンピュータ利用法、インターネット上のデータベース、オンラインジャーナルの検索法等、細かく指導があった。だから最後に学校へ行ってから20年という年配の学生には、大学での勉強についていけるよう基本を学ぶ大切な時間になった反面、クラスメートの中には初歩的なことに無駄な時間を費やしていると感じている人もいた。

「専門技術基礎」は少人数で、看護の基礎技術を理論と実践両方から学ぶ。最初のクラスは、なんとベッドメイキングの実習だった。

Q 「ダイレクトエントリー」の助産婦と看護資格

を持つ助産婦との違いは？」

A「ダイレクトエントリーはベッドメイキングができない。その程度のちがいのよ」

以前こんなジョークをメーリングリストで見て、ダイレクトエントリーを不完全なものとする先輩たちがまだいるらしいということは知っていた。

ベッドメイキングの授業はないと思っていたので、あることを聞いたときは驚いた。その日の担当講師によると、以前ベッドメイキングをカリキュラムに入れていなかった頃、ある助産学生が実習先でベッドメイキングを頼まれたとき「私は看護学生じゃないので、ベッドメイキングは習っていません」と答えたそう。それ以降、やはりどうしても実習先で必要になる最低限の技術は看護学生同様、助産コースにも取り入れようということになったらしい。

最初のひと月は、このように看護の基礎科目が続いた。なかなか助産らしい勉強が始まらず、クラスの中には「思っていたのと違う！」という空気と、無駄な時間を過ごしているような気分が早くも流れ始めていた。